

2024 年度 前期

留学生教育・支援センター

日本語プログラム「上級Ⅱ」シラバス一覧

科目名	曜日・校時	担当者	ページ
上級Ⅱ 総合 C	火 1・2	日暮	… 1
上級Ⅱ 総合 D	金 1・2	永井	… 2

2024 年度 前期	曜日・校時	火曜日・1 校時、2 校時	コマ数	2 コマ
授業科目	上級Ⅱ総合 C			
担当教員名	日暮 康晴	e-mail	授業初日に通知	
授業到達目標	(1) 社会問題や専門的な話題について、詳細、流暢、かつ分かりやすく説明ができる。 (2) 別の視点も示しながら、裏付けのある意見を論理的に述べるができる。 (3) 相手に配慮しながら助言や交渉ができる。			
授業概要／毎週毎の授業内容を含む				
教科書で習った語彙・表現、話題展開の方法を用いて、主に話す練習をします。授業で扱った話題の中から、日本人学生に尋ねてみたいものを選んでインタビュー調査を行い、その結果を分析してから発表をします。また、理解しやすい日本語を発音するため・即座に日本語で応答する力をつけるためにシャドーイングの練習もします。				
		1校時	2校時	
第1週	4/9	オリエンテーション、アイスブレイク	同左、自己評価	
第2週	4/16	第1課「好きな映画・ドラマ・本」詳細に説明する	同左	
第3週	4/23	第2課「年中行事」インフォーマルな話し方で紹介する	同左	
第4週	5/7	第3課「困った状況」相手に配慮しながら説明と助言をする	同左	
第5週	5/14	第4課「不満」相手に同調したり別の視点を提示したりする	同左、シャドーイングテスト①	
第6週	5/21	第6課「図表」社会の動きを具体的な数値を用いて説明する	同左	
第7週	5/28	インタビュー①準備	インタビュー①実施、分析	
第8週	6/4	インタビュー①結果発表	インタビュー①総括、自己評価	
第9週	6/11	第7課「ステレオタイプ」別の視点を提示しながら意見を述べる	同左、シャドーイングテスト②	
第10週	6/18	第8課「就職活動」聞き手に分かりやすい段落構成で説明する	同左	
第11週	6/25	第9課「労働意義」相手の意見を受容してから反論や反駁をする	同左	
第12週	7/2	第10課「環境問題」別の可能性を提示・反論して意見を述べる	同左	
第13週	7/9	インタビュー②準備	インタビュー②実施、分析	
第14週	7/23	インタビュー②結果発表	インタビュー②総括、シャドーイングテスト③	
第15週	7/30	第11課「犯罪」抽象度の高い表現を使って現代社会の問題を説明したり、それに対する自分の意見を述べたりする	同左、自己評価	
教科書・教材等	『日本語超級話者へのかけはしーきちんと伝える技術と表現ー』スリーエーネットワーク 4/16(火)までに長崎大学生協や Amazonなどで購入してください。			
成績評価の方法・基準等	(1)宿題:50%、(2)シャドーイングテスト:15%、(3)自己評価:5%、(4)授業参加度:30% 注意:授業は全回出席することが原則です。授業に出席した時数が授業を行った時数の3分の2に達しない場合は、成績評価は与えられません。			
アクセシビリティ	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 <u>アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先</u> (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp			
備考(準備学習等)	私的な理由(ex. 旅行、家族訪問 etc.)によりテストが受けられない場合はテスト日時の変更を認めない。やむを得ない理由(ex. 母校での手続き・試験 etc., 専門関係:乗船実習, 研究発表 etc.)により、テストが受けられない場合はテスト日時の変更の相談に応じるが、日時の変更が認められた場合、点数は獲得点数の90%となる。			

2024年度前期	曜日・校時	金曜日・1校時、2校時	コマ数	2コマ
授業科目	上級Ⅱ総合D			
担当教員名	永井 智香子	e-mail	授業初日に通知	
授業到達目標	<p>1. 日本の高度経済成長期に関するテレビ番組を教材として視聴することを通じて、日本語の語彙を増やし、文法の復習をする。</p> <p>2. 日本の高度経済成長とは何か。また、そのときに誕生したものとその進化について知る。さらに、高度経済成長期にさまざまな分野で功績を残した日本人について知る。</p> <p>3. 日本語の書き言葉を使って書く力をあげる。</p>			
<p>授業概要／毎週毎の授業内容を含む(このシラバスは変更の可能性あり。最終的なものは授業初日に配布予定)</p> <p>授業の進め方①前週の復習の小テスト②その日のトピックについての説明と意見交換③語彙の確認④番組視聴⑤番組内容確認⑥書き言葉を使って視聴した番組の内容についてまとめる。</p>				
第1週	4月12日	オリエンテーション ウォーミングアップ 書き言葉の練習		
第2週	4月19日	回転寿司の誕生		
第3週	4月26日	カラオケの誕生		
第4週	5月10日	電卓の誕生		
第5週	5月17日	日本のトイレの変遷		
第6週	5月24日	炊飯器の誕生		
第7週	5月31日	新幹線の誕生		
第8週	6月7日	高度経済成長の光と影		
第9週	6月14日	日本初のコンビニを作った鈴木敏文		
第10週	6月21日	醤油を世界に広めたキッコーマンの茂木友三郎		
第11週	6月28日	リケジョのパイオニア 米沢富美子		
第12週	7月5日	日本に洋食と食べ放題を広めたシェフ 村上信夫		
第13週	7月12日	建築家 安藤忠雄		
第14週	7月19日	ニッカウキスキー創業者 竹鶴政孝		
第15週	7月26日	映画『三丁目の夕日』視聴 意見交換と総まとめ		
教科書・教材等	プリント教材			
成績評価の方法・基準等	<p>小テスト40% 書き言葉を使ってまとめたもの30% 授業への取り組み10% レポート20%</p> <p>注意:授業は全回出席することが原則です。授業に出席した時数が授業を行った時数の3分の2に達しない場合は、成績評価は与えられません。</p>			
アクセシビリティ	<p>長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。</p> <p><u>アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先</u></p> <p>(TEL)095-819-2006 (FAX)095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp</p>			
備考(準備学習等)	<p>私的な理由(ex. 旅行, 家族訪問 etc.)によりテストが受けられない場合はテスト日時の変更を認めない。やむを得ない理由(ex. 母校での手続き・試験 etc., 専門関係:乗船実習, 研究発表 etc.)により、テストが受けられない場合はテスト日時の変更の相談に応じるが、日時の変更が認められた場合、点数は獲得点数の90%となる。</p>			

**留学生教育・支援センターで開講されている  
日本語プログラムでの各クラスのレベルについて**

クラス名	レベル	レベルについての説明	受験可能な JLPT (日本語能力試験) のレベル	CEFR (ヨーロッパ言語 共通枠) のレベル
初級Ⅰ	初級 前半	<p>初歩的な文法・漢字（100 字程度）、語彙（800 語程度）を習得し、日常生活に必要な最低限度の会話ができ、平易な文、または短い文章が読み書きできる能力。日本語を 150 時間程度学習したレベル。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。</li> <li>・自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。</li> <li>・もし相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。</li> </ul>	N5	A1 A2-1
初級Ⅱ	初級 後半	<p>基本的な文法・漢字（300 字程度）・語彙（1,500 語程度）を習得し、日常生活に役立つ会話ができ、簡単な文章が読み書きできる能力。日本語を 300 時間程度学習したレベル。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。</li> <li>・簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。</li> <li>・自分の背景や身の回りの状況、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。</li> </ul>	N4	A2-2
中級Ⅰ	中級 前半	<p>基本文法の応用ができ、漢字（700 字程度）・語彙（3,500 語程度）を習得し、一般的なことがら、日常的话题について、簡単な会話ができ、読み書きできる能力。日本語を 400 時間程度学習したレベル。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。</li> <li>・その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。</li> <li>・身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のある文を作ることができる。</li> <li>・経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べるができる。</li> </ul>	N3	B1
中級Ⅱ	中級 後半	<p>やや高度な文法・漢字（1000 字程度）・語彙（6,000 語程度）を習得し、少し高度な一般的なことがら、日常的话题について、会話ができ、読み書きできる能力。日本語を 600 時間程度学習したレベル。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑な文の主要な内容を理解できる。</li> <li>・お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。</li> <li>・かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細な文を作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。</li> </ul>	N2	B2
上級Ⅰ	上級 前半	<p>高度な文法・漢字（1,500 字程度）・語彙（8,000 語程度）を習得し、大学における学習・研究の基礎として役立つことを目指す。日本語を 800 時間程度学習したレベル。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の専門分野に関する非常に専門的な資料から、情報、考え、意見を読み取ることができる。</li> <li>・論拠、論点を整然と展開して、エッセイやレポートを書くことができる。その際、重要な点や関連する補足事項の詳細を、適切に強調することができる。</li> <li>・正確に自分の考えや意見を表現できる。また、説得力をもって議論の複雑な道筋を提示し、それに反応できる。</li> <li>・記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。その際、要点を失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。</li> </ul>		
上級Ⅱ	上級 後半	<p>高度な文法・漢字（2,000 字程度）語彙（10,000 語以上）を習得し、大学における学習・研究の基礎としても役立つような総合的に高い日本語レベル。日本語を 1000 時間以上学習したレベル。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文を理解することができ、含意を把握できる。</li> <li>・言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。</li> <li>・社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。</li> <li>・複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文を作ることができる。その際、文を構成する字句や接続表現、結束表現の用法をマスターしていることがうかがえる。</li> </ul>	N1	C1 C2

※留学生教育・支援センターでは、以下のような日本語クラスを開講しています。

初級Ⅰ (5 単位, 週 5 コマ)	中級Ⅰ読解 (2 単位, 週 2 コマ)	上級Ⅰ読解 (2 単位, 週 2 コマ)
初級Ⅱ (5 単位, 週 5 コマ)	中級Ⅰ聴解 (1 単位, 週 1 コマ)	上級Ⅰ総合 (2 単位, 週 2 コマ)
	中級Ⅰ会話 (1 単位, 週 1 コマ)	上級Ⅱ総合 A (2 単位, 週 2 コマ)
	中級Ⅰ作文 (1 単位, 週 1 コマ)	上級Ⅱ総合 B (2 単位, 週 2 コマ)
	中級Ⅰ漢字 (1 単位, 週 1 コマ)	上級Ⅱ総合 C (2 単位, 週 2 コマ)
	中級Ⅱ読解 (2 単位, 週 2 コマ)	上級Ⅱ総合 D (2 単位, 週 2 コマ)
	中級Ⅱ聴解 (1 単位, 週 1 コマ)	日本語能力試験 N1 対策講座 (1 単位, 週 1 コマ)
	中級Ⅱ会話 (1 単位, 週 1 コマ)	
	中級Ⅱ作文 (1 単位, 週 1 コマ)	
	中級Ⅱ漢字 (1 単位, 週 1 コマ)	
	中級総合 A (1 単位, 週 1 コマ)	
	中級総合 B (1 単位, 週 1 コマ)	

\*週 1 コマとは、1 週間に 90 分の授業を 1 回行うことを指します。

(本ページのみ：2015/07/30 作成, 2018/01/26 更新)